

「土呂久に集まれ!」新聞



令和7年度9月号(第5号)



Instagramもフォローしてね!!

発行 宮崎国際大学教育学部「土呂久に集まれ!プロジェクト」
(<https://sites.google.com/sedu.miu.ac.jp/torokuniatsumare/>)

作成 教育学部2年 学籍番号 20242011 橋本幸汰

みなさん、こんにちは!「土呂久に集まれ!」新聞です。朝夕はだいぶ涼しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか?

今月の「土呂久に集まれ!」プロジェクトの活動を、紹介していきます。

プロジェクトリーダー工藤康太が「高等教育コンソーシアム宮崎シンポジウム」に登壇!

9月20日(土)、宮崎観光ホテルにて「一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎 令和7年度第1回シンポジウム」が盛大に開催されました。この大きな舞台に、「土呂久に集まれ!」プロジェクトのリーダーである工藤康太(教育学部2年生)がパネリストの一人として登壇しました。会場には大学関係者や教育関係者だけでなく、地域の教育やまちづくりに関心を持つ行政、企業、高校生の方々も多数集まり、世代や立場を越えて活発な意見交換がなされる、熱気あふれる時間となりました。

今回のシンポジウムは、「高専・大学・社会で育てる宮崎の地域活性化人材」をテーマに掲げ、地域における高等教育の意義や、大学の先生方と協働する探究学習の広がり、地域と手を取り合った人材育成のあり方など、多角的な視点から議論が行われました。壇上に立った工藤は、少し緊張した面持ちながらも堂々と「土呂久に集まれ!」プロジェクトの歩みを紹介。地域の方々との交流やフィールドワークを通じて得た学びや、活動の中で直面した課題について、等身大の言葉で語り、会場にいた参加者の心をしっかりとつかみました。なかでも「命を頂く経験は、児童に食育を教えるうえでかけがえのない実践知になる」という発言には、多くの参加者が深く頷き、会場からは温かい拍手が送られました。



壇上で語る工藤康太



聴衆の方々

また、他大学の学生や先生方とのディスカッションでは、自身の取り組みを紹介するだけでなく、相手の活動に耳を傾け、積極的に意見を交換しました。その中で、「地域と学生が一緒になって学び合い、成長していく仕組みづくりの大切さ」という新たな気づきを得ることができたそうです。こうした交流は、これからの活動のヒントとなり、プロジェクトの可能性を広げる大きな財産となりました。



本学 工藤康太、パネリストの南九州大学 代表（4年生）、
都城工業高等専門学校 代表（4年生）、
宮崎公立大学 代表（3年生）、
ファシリテーター 宮崎産業経営大学 経営学部 准教授



壇上で語り合うファシリテーター 宮崎大学 総合知教育企画部門 特別講師、
パネリストの宮崎南高校 代表（2年生）、
五ヶ瀬中等教育学校 代表（4年生）、
地域おこし協力隊員/大正大学地域創生学部生

登壇を終えた工藤は、「土呂久での活動は小さな一歩に見えるかもしれないが、実は宮崎全体、さらには社会全体とも深くつながっている。そのことを今回改めて実感した」と語り、活動に対する確かな手応えと、これからの広がりへの期待をにじませました。今後は今回の経験を糧に、地域や他大学とのネットワークをさらに広げ、より多くの人と協力しながら、プロジェクトを一層充実させていきたいという強い意志を胸にしています。



応援に来てくださった河原国男学部長先生、工藤康太、山下恵子学長先生、橋本幸汰